

これ地中の中に埋めるんですね、しかも、これは更にこの下にタイムームという、何か大きな支えなんかも造らなきゃいけないと。これ、いろいろ、専門家の指摘の中に、地盤が非常に弱いんでないかというような指摘があったり、地下鉄が近くに走っていますよね、そのようなところというのはいかというかな、これ確認はもうされているんですか、穴を掘って大変なことになったというようなことで、これ止まってしまおうということではないんです、その辺りの地理的な条件などについてももう十分検証されているんですね。

○参考人(河野一郎君) 今御指摘の点につきましては、専門家において確認をしております。

○森本真治君 問題ないんですね。

○参考人(河野一郎君) そのように認識しております。

○森本真治君 最後に伺います。

このような公共工事というのは途中で契約変更が行われるということは、しよっちゅうというか、よく行われることです。今回はしっかりと事業者と事前の契約の中で、二千五百二十億なら二千五百二十億、例えば、穴掘ってみて大変なことになった、地盤が弱くてまた補強しなければいけない、また契約額が増えるというようなことがあつては、どんどんどんどんこれはまた青天井のように膨れ

上がつていきますから、事前に事業者との契約の中で上限を決めるべきだと思いますが、最後にこのことを聞きたいと思えます。

○参考人(河野一郎君) これまでのお話の中でもありましたように、二千五百二十億ということ、現在施工予定者と合意をしているところでございます。

○森本真治君 ちょっとこの後は蓮舫委員の方にお任せしたいと思います。ありがとうございます。

○蓮舫君 民主党の蓮舫でございます。

まず、遠藤大臣、現時点で国民が東京オリンピック・パラリンピックに最大の関心事を持っているのは、一言で何だと思えますか。

○国務大臣(遠藤利明君) 最大の関心事は二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック大会が大成功に終わること。そのために、例えば東日本大震災の問題あるいはメダルの問題、そうしたことも、もちろん、今世論調査を見ましても国立競技場の問題について関心があることも十分承知しております。

○蓮舫君 その関心事の感覚がずれています。確かに二〇二〇年成功させるのは大前提です、私たちもそう思っています。ただ、今の国民の関心事は、二千五百二十億に膨れた国立競技場の建設費です。資料一、先送りした屋根工事費を除きまし

て、千三百六十五億円の予定が二千五百二十億になった。千百五十五億、また随分と膨れましたね、倍近くです。これ相当な衝撃ですよ。

遠藤大臣、なぜ国民が関心を持っているこの予算膨張について所信表明演説で一言も触れなかつたんですか。

○国務大臣(遠藤利明君) ただいまお話しただきましたように、世論でそういう意見があることは十分承知をしております。

国立競技場につきましては、もちろん私は調整をしますから、いろんな形で各省庁あるいは都あるいは競技団体を調整しますが、まずは文部科学大臣が決断をし、そして政府として決定をされたということでありますから、それに従って進めていこうと思っております。

○蓮舫君 オリンピック・パラリンピック担当大臣として、国民が不安に思っている予算膨張について触れなくてもいいと判断したんですね。

○国務大臣(遠藤利明君) トータルとして判断していいこうと思っております。

○蓮舫君 世論の八割が反対です。これ見直すべきではないですか。

○国務大臣(遠藤利明君) トータルとして判断しますが、一つ一つの事業等については各担当大臣がいらっしゃいますので、最終的に調整はあるかと思いますが、まずは各担当大臣の決定を踏ま

えて対応していきたいと思っております。

○蓮舫君 下村大臣あるいは総理も、ザハデザインは民主党政権で決まったと口をそろえます。確かにそうです。民主党政権で決めました。千三百億でした。これが上限です。その決定の一月月後、私たちは下野をしました。実際に見直すことなく予算を試算、膨らませてきたのは自民政権です。デザイン決定の翌年、最終招致プレゼンには安倍総理自身が出席をして、ほかのどんな競技場とも似ていない真新しいスタジアム、確かな財政措置に至るまで確実な実行が確証とスピーチしました。斬新なデザイン、財源も大丈夫、総理が言って招致したんですよ。実施設計が倍の試算になった途端民主党政権の責任だというのは、これは適切ですか。

○国務大臣（下村博文君） 一言も民主党政権の責任だとは申し上げておりません。ただ、ザハ・ハイド氏のデザインを選んだときは民主党政権だという事実関係だけ申し上げているわけでありまして、責任回避をするつもりは全くございません。千三百億という予算の中でザハ・ハイド氏の当初の案を造ると、これ三千億になるということが後で分かった中で、これはとてもその予算の中でできないということ、約二五％縮小し、そして一千六百二十五億の中で造ろうということの中で、最終的に二千五百二十億になったわけでありま

が、それについてはいろんな工夫をしながら国民の皆様方に御理解をしていただけるように、しっかりとした説明責任を果たしてまいりたいと思っております。

○蓮舫君 現時点の物価で先送りした屋根等を建設すると二千七百八十億になります。限りなく三千億に近づいていく。しかも、この額は目標であって上限ではありません。物価上昇を現政権は政策目標に掲げています。この枠まだ膨れるおそれが高い。遠藤大臣、適切な額でしようか。

○国務大臣（遠藤利明君） 今、膨れ上がるとおっしゃいました。適切かどうかにつきましては、私は技術者ではありませんから一つ一つは分かりませんが、文部科学大臣が決定をし、そして内閣としてそういう方針で進むということでありまから、それに従って対応したいと思っております。

○蓮舫君 そうすると、遠藤大臣、ここまで予算が膨れ上がってきたのは、下村大臣の責任ですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 責任がどうかとかにかについては、まだ私、その中身について熟知しておりません。

○蓮舫君 オリன்பピック・パラリンピック担当大臣として中身を承知していないのは、自分は適切な仕事をしていると思いませんか。

○国務大臣（遠藤利明君） 責任がどこにあるかということについては、まだ内容について精査を

しなきゃならない、下村大臣もこれから精査をするとおっしゃっておりますから、それを聞いた上で判断があるものと思っております。

○蓮舫君 いや、国民の税金を使って新国立競技場を造っていくときに、誰が総プロデューサーで誰が責任を担って、一元的な指示を誰が出しているか、オリன்பピック・パラリンピック担当大臣としてそれは分からないということですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 分からないということではなくて、今これから精査をされるということですから、それを踏まえて対応を考えていくということでもあります。

○蓮舫君 確認します。どなたが責任を持ってこの新国立競技場の事業は国民の税金で進めるんですか。

○国務大臣（遠藤利明君） スポーツ振興センターの所管はもちろん文部科学大臣があります。ただ、私は、あくまでもこの大会を成功させるために、もちろん国立競技場の問題もありますし、インフラ整備もありますし、セキュリティありますし、それを総合的に踏まえて対応していく、総理大臣を補佐して仕事をしていくことが私の務めだと思っております。

○蓮舫君 この責任の所在をはっきり言えない、誰が責任かも、進めることができない。このまま浮遊して新国立競技場を進めていくのは、私、非

常に危険だと思えます。

そもそも、東京招致が決定した後、基本設計に入って、二〇一四年五月、概算額を千六百二十五億と公表しました。この予算、JSCに伺います。適切な試算を行いましたか。

○参考人（河野一郎君） 二〇一四年五月に公表した基本設計におきまして、概算工事費千六百二十五億円につきましては、二〇一七年の七月の時点の単価で、消費税五%をベースとして試算したものでございます。

具体的には、通常行われる手法によりまして、基本設計図、平面図、立面図、断面図等から数量を算出したしまして、単価についてはメーカーへのヒアリングによる単価、二〇一三年七月時点の単価でございますが、設計者、日建設計、梓設計、日本設計、アラップ設計の共同体のJVの直近の建設実績に基づく単価を活用して概算工事を算出したものでございます。

○蓮舫君 今回、大幅に予算が膨らんだその理由は、消費税が増えた。基本設計時、二〇一五年春から八%になるって決まっていた。何で分かっていたのに試算に八%と入れなかったんですか。○参考人（河野一郎君） 基本設計条件といたしまして、二〇一三年十二月に文部科学省におきまして決定されました金額が約千六百二十五円のベースがございました。したがって、その時点

での数字、二〇一三年七月の単価、消費税五%だったために、基本設計条件にはこの単価を使用したところでございます。

○蓮舫君 さらに、特殊性で七百六十五億円膨らんだというんですが、新競技場の屋根を支える二本合わせたこのキールアーチは、長さが二本合わせるとスカイツリーを超えます。大量に必要とされる鉄骨等はいきなり分かった特殊性ではありませんか。

二枚目の資料に特殊性について書いていたんですが、全く読めば読むほど分からない。十五か月予算で、安倍内閣が補正、本予算でじゃぶじゃぶに大型公共事業に財政支出、復興需要と併せ、資材、労務費高騰は既に進んでいました。さらに、東京招致が決定して以降、都内は不動産価格の上昇、大変な物価が上がっていた。そのさなかの去年一月から五月にJSCは基本設計を行っていたんですが、こうした特殊性はそのとき認識していましたか。

○参考人（河野一郎君） 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の東京開催決定後に、御案内のように複数の大規模建設プロジェクトが相次いで動き出しており、現在、二〇二〇年までの完成を目指しております。この結果、建設に関わる人材と資材の需要が大きく増加をいたしました。供給とのバランスが崩れるといった背景の中で、

技術的難易度が極めて高い新国立競技場の工事に、受注メーカーが限定されている中、高度な技術を持つ人材を確実に確保することが必要なこと、大量に良質の資材を確実に確保することが必要なこと、また、大量に発生する建設発生土を運搬するダンブや運転手を短期間で大量に確実に確保することが必要なことなどが、人材及び資材の調達を確実にしなければいけないということで特殊性がありました。これは、その時点ではここまで規模になるということは想定ができなかったところでございます。

○蓮舫君 先週の参議院の文部科学委員会で、鬼澤理事は認識していたと答弁しました。なぜ今違うんですか、理事長。

○参考人（河野一郎君） 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の東京開催決定後に複数の大規模プロジェクトが相次いで動き出しておりますが、需要と供給のバランスがこれほど大きく崩れるということは想定しておりませんでした。しかしながら、二〇一四年五月の基本設計時には、技術的な難易度が高いことや大量の資材や人材が必要になることについての認識はございました。

○委員長（大島九州男君） 速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長（大島九州男君） 速記を起こしてください。

日本スポーツ振興センター理事長河野一郎君、再度答弁を。

○参考人（河野一郎君） その当時、二〇一四年五月の基本設計時には、技術的難易度が高いことや大量の資材や人材が必要になることについての認識はございました。

○蓮舫君 ありがとうございます。

認識していたけれども、なぜあえて招致決定前の七月の単価で試算をしたんですか。

○参考人（河野一郎君） 二〇一三年の十二月に文部科学省におきまして基本設計条件として決定された金額、千六百二十五億円のベースが二〇一三年七月単価、消費税5%であったために、基本設計条件にはこの単価を使用したものでございます。

○蓮舫君 三枚目の資料です。単価に使った一昨年の建設市況、建設費指数を仮に鉄筋コンクリート造りの体育館の仕様で見ると、二〇〇五年基準で二〇一四年五月には実に七%上昇している。物価上昇を掲げる政権でより精緻な計算を出すなら、文科省の示した十二月ではなくてその五か月後の直近の単価で試算すべきではないですか。

○参考人（河野一郎君） 先ほど申し上げましたけれども、基本設計条件のときには、文部科学省

と話をさせていただいて、その前年度の、つまり十二月の時点でお認めいただいたものを使用したものでございます。

○蓮舫君 実は、JSCは十一月に、延べ床面積を小さくして見直しをして、三千億に膨らむと言われていたものを千八百五十二億に縮小したんです。ところがその後、十二月、自民党の無駄撲滅の指摘で、概算は千六百二十五億にと提言され、それが実は政府上限になりました。政府上限を忠実に守るとなると、消費税増税を外す、あえて単価の低い時期を遡って抽出し試算をするこ

とで上限額に合わせたんじゃないですか。

○参考人（河野一郎君） 今のところの御指摘につきましては、本体工事の部分、例えばエアコン、ディショニングとかそういうところについての見直し、それから周辺工事につきましては、いろいろな造る段階でのクオリティーを検討するという

ことによって減額したものでございます。

○蓮舫君 いや、実は先ほど理事長答えているんです。この上限額を試算で出したのは、千六百二十五億という文部科学省の上限がベースにあった、つまりそのベースに合わせたんじゃないですか。

○参考人（河野一郎君） 今申し上げましたように、減額できるところについて試算をして千六百二十五億ということになったものでございます。

○蓮舫君 下村大臣、この理事長の答弁ですけれ

ども、この試算、信用できますか。消費税増税分外す、工事できるまで全部先送りをする、あえて招致前の、物価が上がる前の単価で試算をしている。この時点で正式な試算をすれば、どんどんどんどん膨れ上がるのに、大臣が止める政治決定もできた。でも、粉飾していたんじゃないですか。

○国務大臣（下村博文君） 粉飾というのは適切な言葉ではないというふうに思います。

先ほどのように、千六百二十五の中で、創意工夫の中で造るといふ努力をしている中、一つ一つの努力が適切だったかどうかというのは、これは一つ一つ判断する必要があると思いますが、そういう中で努力をしたんだと思います。

○蓮舫君 粉飾は言い過ぎかもしれません。失礼しました。ただ、水膨れをしていると私は思っています。

その部分で、基本設計時からの変更点多くあるんですが、資料四、これちよつと御説明ください。キールアーチのつり耐荷重増を設計に反映済みとある、何ですか。

○参考人（河野一郎君） 日本スポーツ振興センターといたしましては、新国立競技場の設計に際しまして、文化イベント等を対応して追加が必要となる照明やその他の機材などをキールアーチ等からつり下げるために、ユーザーからの意見を踏

まえて必要な耐荷重等を想定したところでございます。

その後、平成二十六年六月にＩＯＣの調査委員が来日されました。第一回のＩＯＣ調整委員会が開催されました。それ以降、ＩＯＣの要望を踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の委員会等と協議を重ねてきております。その中で、現場レベルですけれども、大会組織委員会から、開閉会式等の演出のための耐荷重等については耐荷重を少し見込んでほしいというお話がありましたので、これに関する不足分について、後施工ではできないために、あらかじめ反映したものでございます。

○蓮舫君 分かりやすく言うと、新国立競技場そのものがどうなるか未定です。予算も未定です。オリンピックの開会式の演出も未定です。演出家も未定です。なのに、アーチで、演出で物をつり下げられるように強度を増したんですね。幾らですか。

○参考人（河野一郎君） 約三億円と見込んでおります。

○蓮舫君 本当に精査をしましたか。つまり、オリンピックの演出もまだ全く決まっていないのに、物をつり下げる可能性があるから三億掛けて強度を増している。一事が万事、こうやって予算って水膨れしているんじゃないですか。しかも、この

建設費の外ではありませんが、オリンピックを契機にＪＳＣは新競技場の敷地内に新築ビルも建てることになりました。財源は税金で百七十九億。いろんな意味で便乗。今の精査というのは、これは国民にどうぞ御安心して信頼してくださいと、理事長、言えますか。

○参考人（河野一郎君） 日本スポーツ振興センターとして、適切な手順を踏みながらここまで進めてきているというふうに考えております。

○蓮舫君 これが、適切な手順というのが新国立競技場を進める責任者のコメントです。よく覚えておきます。

文科大臣、財源についてなんですけれども、現段階で決まっている財源、幾らですか。

○国務大臣（下村博文君） ＪＳＣが今年の七月七日の国立競技場将来構想有識者会議で示した目標工事額二千五百二十億円の内訳は、スタンダード工区が一千五百七十億円、屋根工区が九百五十億円であります。（発言する者あり）財源、これについても申し上げたいと思うんですけども、この財源、このように、この基本設計段階からの増要因がある中で、今後多様な財源の確保に努めていくことが必要であるというふうに考えております。

その中の具体的なものとして、今回は閣議決定で、国立競技場は国費でということだけではなく、

多様な財源の中で、その国費に加え、スポーツ振興くじの財源を活用する、また東京都に対して一部費用負担をお願いをする、そして国費については今年度までに総額三百九十二億円が措置されており、今後、スポーツ振興基金のうち二十五億円を取り崩して国立競技場の整備費に充てるとともに、建設工事が本格化する平成二十八年度以降に相応の額を予算要求をしていきたいと考えております。

スポーツ振興くじ、財源につきましては、現行制度上、当分の間、くじの売上げの五％を特定金額として国立競技場の整備費に充てることができるということになっております。これまでに約百九億円を確保しております。さらに、現在、超党派のスポーツ議員連盟におきまして、その特定金額の割合の引上げなどに係る法律改正の検討が進められているというふうに聞いております。これが実現するように期待をしております。

東京都との負担金額については、今後、東京都と調整して決定していくことになっておりますが、これについては遠藤オリパラ担当大臣にお願いしているところでございます。

今後、できるだけ国民負担が増えないよう、さらに国立競技場の任命権販売、それから寄附の募集、それから国立競技場の整備後の運営の民間委託など様々な工夫を行うことによりまして、極力

国民の税金、負担増にならない工夫をしまいたいと思います。

○蓮舫君 大臣、六月二十九日に、今の答弁にもありましたが、命名権で二百億を確保する、内訳を教えてください。

○国務大臣（下村博文君） 命名権で二百億というものを申し上げたわけじゃなくて、命名権それから寄附募集合わせて二百億を考えていきたい。これについては、今後省内で、どのような形で募集するかということについて検討してまいりたいと思います。

○蓮舫君 二百億の命名権等の内訳を教えてください。

○国務大臣（下村博文君） ですから、申し上げたように、命名権で二百億ということではありません。命名権と、それから寄附等の御協力をいただいで、そして寄附していただいた企業、個人に対しては国立競技場のところにパネル等を出させていただくような形でやっていただいています。その内容の内訳については今後検討していきたいと思っていますが、二百億集めていきたいと思えます。

○蓮舫君 二百億、内訳はありませんでした。東京都とはまだ合意をしません。都とは、今超党派の議員が頑張っておりますけれども、安保の影響もあって法律は提案もされていません。つま

り、一枚目の資料の一番右、財源見通し、現段階で二千二百億近く財源が全く未定であります。

既に確定した財源で、JSCが保有していた基金を取り崩して百二十五億を建築費に充てることにしているんですが、この基金が減少で減る利回り費六億は毎年一般会計から補填することも実は文科省と財務省で決めています。つまり、さまざまな整備計画のツケは、もう既に税金で補填をするということが着々と決められている。

この百二十五億、基金取り崩すと、スポーツ選手強化、地方公共団体への支援金がなくなります。遠藤大臣が言っているメダルを取る選手支援と真逆じゃないですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 百二十五億円の基金取崩し、それに伴って六億円の支出ということは伺っております。

ただ、全体として、サッカーくじについて、サッカーくじとスポーツ振興基金はまた別でありますが、そうした形でトータルとして選手強化費をこれからもしっかりと確保していきたいという思いは変わっておりません。

○蓮舫君 遠藤委員長、JSCの新競技場の収支見込みというの提案しているんですけど、それは信頼できるものですか。

○国務大臣（遠藤利明君） JSCからそういう報告があるとすれば、それは信頼すべきものと思

っております。

○蓮舫君 資料五です。是非よく見てください、信頼に足るものかどうか。

発表して概算するたびごとに、収支見込みは一・一億減、二・二億減、現段階ではもう収支見込み三千八百万。しかも、これは改築後五十年間に必要な大規模改修費を支出に入れていないんです。大規模改修費一千億を支出に入れると、赤字額は何と二十億円に膨れます。JSC、これ説明してください。

○参考人（河野一郎君） 改築後五十年間に見込まれる大規模改修費につきましては、国土交通省所管の建築保全センターの建築物のライフサイクルコスト等に基づきまして、更新率、更新周期を決定した上で試算しており、約一千四十六円と見込んでいます。

○蓮舫君 マイナス二十億に、これ赤字になるんですけれども、よろしいんですか。

○参考人（河野一郎君） 大規模改修費につきましては、独立行政法人が所有する施設の大規模改修費につきましては国が措置するというふうに承知しておりますので、具体的に必要が生じた段階で予算要求をするというふうに理解をしております。

○蓮舫君 では、文科大臣、改修費一千億を超えて、どこから捻出するんですか。

○国務大臣（下村博文君） このJSCが今年の七月七日に公表した大規模改修費一千四十六億円でありますが、これは供用開始後五十年間使用し続けた場合の試算額を示したものでありますが、毎年度発生するというものではなく、また経年による劣化の状況や今後の技術進歩等により見込額が変化するものであります。

いずれにしても、この独立行政法人が所有する施設の大規模改修、大規模修繕につきましては、民間企業のように毎年積み立てていくというやり方ではなく、必要が生じた際にその都度独立行政法人として予算措置を講じて財源を確保していくということが通例でありまして、国立競技場についても同様と考えております。

○蓮舫君 いや、一千億は、五十年レガシーとして使ったら掛かるという試算なんです。誰が払うんですか。

○国務大臣（下村博文君） これは基本的には、スキームとしては国が予算措置をするということになります。

○蓮舫君 更にこの収支見通しが悪化するんではないかと危惧しておりますけれども、JSC、屋根を先送りしました。この屋根を大会後に造ると工期は一年掛かりますが、競技場が一年使えないということではよろしいですか。

○参考人（河野一郎君） スポーツ施設部分につ

いては使えないというふうに認識をいたします。

○蓮舫君 一年間休業する。そうすると、でも、年間の人件費や管理業務等支出はあります。一年間休業して、収支はどれぐらいになりますか。

○参考人（河野一郎君） 仮に新国立競技場で想定しています全事業を一年休業した場合、休業期間中の収入は見込めなくなります。全事業を休業した場合でも、施設の保守管理業務、警備業務などの最低限の維持管理費用、約九億円は発生するものと考えております。

○蓮舫君 そうすると、収支見込み、改修費をいれなくても十億の赤字、改修費を入れると三十億の赤字。これ、国民納得すると、理事長、本気で思っておられますか。

○参考人（河野一郎君） しっかりと経緯について今後御説明をしていきたいというふうに考えております。

○蓮舫君 資料六、独法JSCの中期計画では、実際の収支が計画よりも悪化した場合、差額は自主財源により賄うこととあります。じゃ、併せて提出してください。三十億の赤字にならないために、初年度の赤字を補填する自主財源、三十億はどこから捻出しますか。

○参考人（河野一郎君） JSCの他の自己収入例えば代々木競技場の運営収入等を念頭に置いております。

○蓮舫君 幾らですか、それは。

○参考人（河野一郎君） 代々木競技場の運営収入は約十九・三億円でございます。

○蓮舫君 一年間で十九・三億出るんですか。それは全部この赤字の補填に使いますか。

○参考人（河野一郎君） この収入も念頭に置いてあるということでございます。

○蓮舫君 三十億の赤字を補填する。じゃ、ほかの十億はどこですか。

○参考人（河野一郎君） 現在、その後の経営につきましては、多様な目的に使う、つまり文化イベント等、複合的な使用をするということ、実際の経営方針について、経営スタイルについてどのようなものにしたらいいかということについて現在検討しておりますので、それも併せて考えていきたいというふうに思います。

○蓮舫君 済みません、屋根、一年間工事をしているときには文化イベントも開けません。何でそれが歳人になるんですか。

○参考人（河野一郎君） 三十億円の中には大規模修繕費も入っておりますので、これについて試算をしたいと思っております。

○蓮舫君 そもそも独法というのは、利益や内部留保ができる仕組みになっていないんです。ただ、法律を改正してきて、自分で頑張った部分の自己収入は基金にためてもいいとなつていっているんです

れども、JSCさんは、どんなに頑張っても、この自己収入を上げて、それを自由に使えるというような中期計画になっていないんですよ。

そういうときに大臣は、オリンピック後の管理運営を、JSCから民間委託、コンセッション方式を考えていると発言しました。これはなぜですか。

○国務大臣（下村博文君） それは現在、今JSCの中でも検討していることですが、二〇二〇年以降におきましては、これは新国立競技場における運営については、民間、例えばPFI方式、その権利主体はJSCであります。運営については民間委託をすることによって、より有効的な黒字に転換していくやり方について検討するということがあります。

○蓮舫君 つまり、今のJSCの収支見通しがやっぱりリスクだと大臣もお考えになられて、民間に委託して黒字にする努力をしようと言うんです。でも、このコンセッション方式というのは、PFIなんです。これは、既にある施設の管理運営を民間に委託するほかにも、設計、建設時から管理運営まで委託するBOT方式というのがあります。何もこんな見通しの甘い、赤字になるという試算を堂々と出してくるようなJSCに二〇二〇年まで任せるのではなくて、あしたから民間に委託したらどうですか。

○国務大臣（下村博文君） それは今までの経緯の中で、今回は国民の皆さんに、あるいは本委員会でもそうですが、理解をさせていただくための努力、我々も最大限していきたいと思いますが、一つポイントは、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックに間に合わせるということだけでなく、二〇一九年のラグビーワールドカップにも間に合わせなければならぬと、この新競技場はその前提で造るということがあります。その前提の中でいろんな工夫ができれば、それについては謙虚に耳を傾けていく必要があると思います。

○蓮舫君 その話、また後ほど伺いますが、ちょっと数字を、これ文科省として精査をして公表してもらいたいものがあります。先ほど森本議員からも話がありました。二〇二〇アジェンダ、財政面でコスト削減をしていこう、これ去年の十一月にIOCが方針をまとめました。

それを受けて、元々東京オリンピックというのは、招致の目玉はコンパクト五輪でした。東京圏の競技会場、ホテルは、選手村から八キロ圏内に設置をする、この距離内で新設、仮設、既存施設の会場を二十八提案して、これが認められたんですね。ただ、IOCの方針があるから、この場所を北海道とか、今、愛知からも提案をされていまして、八キロを大きく超えてコンパクト五輪は見直すことになりました。

遠藤大臣、結果、何か所の施設を見直して、幾ら削減効果がありますか。

○国務大臣（遠藤利明君） 昨年十二月のIOCの提言におきまして、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場について、本年二月のIOC理事会及び六月のIOC理事会において、二競技を除く二十六競技の競技会場が決定されることとなります。

○蓮舫君 削減効果は。

○国務大臣（遠藤利明君） この会場の見直しを行った競技は九競技、七会場でありますので、一連の見直しにより合計で約十七億ドルの経費削減につながったということでもあります。

○蓮舫君 七枚目の資料を御覧ください。

現在、自転車とサッカーの地方予選会場を見直ししているんですが、既に決定した九か所の施設整備費、立候補時は六百三十五億で整備するとしていました。これ新設の会場と既成をちよつといじるものもあります。ところが、今、資材の高騰を受けて膨れてしまった額をもう一回削減で見直したところ、削減額は、本来六百億でやるとしていたものが、マイナス千七百億。得しちゃう計算なんです。これ、なぜですか。

○委員長（大島九州男君） 速記を止めてください。

〔速記中止〕



○委員長（大島九州男君） 速記を起こしてください。

○国務大臣（遠藤利明君） お答えします。

今、組織委員会の方で精査中でありますが、当初六百三十八億、それが資材高騰等でかなり上がりますというふうな結果が出て、それで改めて費用削減の努力をして千七百億下げたということがあります。

○蓮舫君 新国立競技場と同じで、ほかの競技の予選会場、本会場の設備も資材、人件費の高騰で相当膨れているんです。

これ例えば、セーリング見てください、数字が分かりやすいので。これは江東区から江の島に移りました。本来、江東区で新設しようとしたのが、お金がないから江の島にしようとしたのが、百億予算が四百億削減になっちゃう。最低で計算すると、資材高騰でもし五百億になったとしたら、これを行革で見直して四百削って、元の値段の百億でできる。そうすると、僅か二年間で、招致のときよりも予算額が五倍に膨れているという計算になるんですね。

実は組織委員会は、この予算が幾らに膨れて、どんな努力をして幾ら削減したかというファクトを公表していません。文科省も把握していないといえます。これ大臣、ちょっと把握して公表していただいけませんか。

○国務大臣（下村博文君） これは私も詳細聞いておりません。今組織委員会で検討しているところでありますが、私自身も把握するようにしていきたいと思えます。

○蓮舫君 大臣がこうして詳細を把握していないということが実は私非常に不安なんです。遠藤大臣も答弁に今ちょっと資料の調整困られましたけれども、つまり、誰がかじを取っているのが、こういう質問をしても全く答えが返ってこないんです。だから、みんながそれぞれの問題、課題をそれぞれ頑張って努力しようとして、突き合わせてみたら、想定外の額になった、想定外の工期になった、国民に負担どんどん押し付ける。

これ少しかじ取りを整理していただきたいんですが、なぜこの数字を明らかにしていただきたいかという、組織委員会や地方公共団体がこれお金を負担するんですが、地方公共団体にとって、誘致はしてみたいけれども、誘致したときの把握している額は立候補ファイル上の整備費ですから、誘致はしてみたいけれども、蓋を開いたら想定以上に工費が膨らんでいた、ちょっと私これもう持ってません、キャンセルする可能性も出てきます。あるいは、キャンセルする可能性も出てきます。あるいは、地方債を発行しなきゃいけなくなってくる。あるいは、国に交付税措置してくれという陳情が来るかもしれない。そうすると、また負担は住民と国民に回ります。だから、もう一回これや

っぱり整備をして公表していただきたい。これ確約してもらえますか。

いや、だから、誰なんですか、これを答えるのは。

○国務大臣（遠藤利明君） 精査してお答えさせていただきます。

○蓮舫君 済みません。公表するという決定はどなたがされます。どの大臣ですか。

○国務大臣（下村博文君） 今御指摘のこの資料七については、これは組織委員会と東京都が見直しを行っているというふうに思います。

ですから、第一義的には、東京都、組織委員会が発表する、責任を持って公表するということですが、責任を持って公表する必要があるれば、私の方できちっとお答えさせていただくように準備をいたします。

○蓮舫君 ありがとうございます。

ここまでいろいろ聞いてきましたけれども、新国立競技場、予算は財源がほとんどありません。さらに、膨張可能性がある整備費です。キールアール等、技術面への不安もあります。国民の不信もあります。

これ、大臣、本当に見直さないで進めますか、このまま。

○国務大臣（下村博文君） 御指摘の点は、もっともな点が多々あると率直に思います。

ただ、先ほど申し上げましたように、二〇一九年のラグビーのワールドカップ、それから二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック、この新国立競技場は使うということでございまして、それを前提に考えていく必要があると思います。

その中で、創意工夫をしながら、国民の税金をできるだけ使わないような工夫の仕方、それから今後のことについても、民間委託含めていろんな形を取りながら、そして国民の皆さんの理解が得られるような、そういうことをきちっとやっていくということが説明を果たしていくということにつながってくると思います。

○蓮舫君 国民の負担をできるだけ少なくという気持ちは分かりますけれども、最終的にはこれ国民の負担であり、つまり税金なのか、あるいはtotoを買った人なのか、これぐらいはわからないです。だから、国民の負担は、いずれにしても押し付けられるんです。税金なのか、totoなのかという形態はありますけれども。

その上で、これJSCに確認しますけれども、キールアーチ、今プロポーザル契約をして技術提供してもらった二社がありますけれども、ゼネコン、スタンド工区と屋根工区と分かれているんですね。これ、キールアーチはどちらが建設されますか。

○参考人（河野一郎君） 基本的に、屋根工区の

施工者になります。

○蓮舫君 特殊性でも多額の予算増になっているキールアーチ等の問題点、建設リスクも含めて、世界的建築家の横文彦さんが五月二十九日に提言を出されています。これ、大臣、どういうふうに見ていただきました。

○国務大臣（下村博文君） 横さんグループから、最初の案としては、ラグビーワールドカップはもうほかの会場ですべきであるということの中で、キールアーチと違う国立競技場建て直しを考えればオリンピック・パラリンピックに間に合わせることはできると、そういう提案でございました。それに対して、私も直接横さんにお会いして詳しい内容についてお聞きをいたしました。

ただ、先ほどちょっと申し上げましたが、この国立競技場は、平成二十三年二月に、ラグビーワールドカップ二〇一九日本大会成功議員連盟におきまして、八万人規模のナショナルスタジアムへの再整備について決議がなされ、その後、同年七月に東京都が二〇二〇年オリンピック・パラリンピック競技大会に立候補したという経緯から、両大会の主会場とすることを念頭に改築計画を進めてきたところであります。

この改築計画につきまして横さんから見直しを提言されたわけですが、その内容は、最終的には、ラグビーワールドカップ二〇一九を別の

場所で開催することにより工期を延ばし、キールアーチを設置しないというものであったわけであります。

横グループの御提言については、JSCにおいて設計者から意見を聴取するとともに、私も、横氏御自身のお考え、それから、JSCや施工業者だけでなく、第三者的な立場の業者やゼネコンのいろんな関係者からも客観的な御意見を伺うなど、真摯に検討してまいりました。

仮に、デザインを全く新しいものに変えるとした場合、設計者の随意契約、施工者の技術提供、交渉方式による選定を前提としたとしても、設計開始から竣工までに六十一か月、五年一か月、今年のこの今月から起算すると二〇二〇年七月末まで掛かると見込まれまして、ラグビーワールドカップ二〇一九には間に合わないということになります。

また、国立競技場の改築は、将来を見据え、国際競技大会を継続的に招致、開催するためには、東京の都心に八万人規模のスタジアムが必要であるという基本的考え方に立っていること、さらに、見直しを行った場合、設計やデザインに係る権利に関し紛争となり、建設計画そのものがストップするリスクもあると考えられることから、採用することはできないと判断したところであります。

○蓮舫君 JSCにお伺いします。

設計者から意見を聴取して文科大臣に報告したと言いますが、この設計者は基礎設計、実施設計を請け負った設計者ですか。

○参考人(河野一郎君) 横文彦先生の提議につきましては、日本スポーツ振興センターにおいて設計JⅤから設計に必要な期間を聞くなどして検討したものでございます。

○蓮舫君 その設計JⅤは、自分たちの設計を否定する槓案を検討して、槓案が最適だと答える可能性はあったんでしょうか。

○参考人(河野一郎君) 技術的、客観的に検証したものと考えております。

○蓮舫君 非常に身内などころだけで全て物事を決めて、私は横先生の御提案は極めて現実的だと思います。国民負担も低く抑えられるし、工期も短くすることができるとし、そして今いろいろと皆さんが懸念に思っていることにしつかり応えることができる。

大臣もゼネコン関係者に何ったと言いますが、文科省に聞いたら、これ大臣が聞いてきて文科省は誰も把握していない。省として動いている話ではないんですね。だから、身内に聞いて無理だという判断をするのが、私は公開の場でやるべきだと思っております。

九枚目の資料なんですけれども、菅官房長官とかは、このザハデザインを変えることは国際公約

に違反するからできないと言いますが、これ去年掲げたコンセプト八つ、既にそのうちの五つが、先送り、変更、変更、先送り、赤字拡大、もうこんなに見直しになっているのに、最も金が掛かる部分だけは国際公約だから見直さないというのが私は理解できません。

そして、これ文科省から出していただきました。十枚目の資料、ザハ契約を破棄すると違約金が生じると何度も言われたんですけども、実は違約金は契約上生じません。これまで掛かった実費だけで実は契約は破棄することができます。現段階で破棄したら十五億で済みます。今判断して、かじを切るべきではないですか。

○国務大臣(下村博文君) まず、身内だけ聞いて判断したということについては、是非これは訂正していただきたいと思えます。そういうことではなく、第三者的な立場の業者やゼネコン関係者から、これは私個人がいろんな方々に、横さん含めて聞いたことではありますが、そういう身内レベルで聞いたということではなく、広く関係の方々からお聞きしました。

それから、横さんたちも、自分たちの案を採用してくれということで提案してきたわけではありませんが、これはJSCを通じて設計者から意見を聴取したときも、横さんたちの案を取り入れるということではなくて、ザハ・ハデイド氏の案

以外の案でもう一度ゼロから造り直したときにどうなのかということ、これは客観的にいろんな方々からお聞きしたことであります。

これは、先ほど申し上げましたように、まだ間に合うということであれば、つまりラグビーワールドカップも間に合うということであれば、これは、いろんな議論は政府の中でも、あるいはこれはもちろん政府だけで決められることなく、組織委員会やJPC、JOC、東京都、それから今度は遠藤オリパラ担当大臣も新たに新任されたわけでありまして、そういう、最初に私が報告をしたのは、この組織委員会の調整会議というところで、今回、二千五百二十億に新国立競技場になるということについて最初に私の方から説明いたしました。

ですから、そういうところで関係者で決めるということではありますが、残念ながら、二〇一九年のラグビーワールドカップはやはりこの国立競技場で行う必要があるということの中で、これは見直したら間に合わないということでもありません。

○蓮舫君 身内だけ聞いてと、訂正してくださいと言いましたけれども、大臣も今答弁で言いましたが、私個人で第三者のゼネコン関係者に聞きましたと。大臣として聞かなきゃ駄目なんですよ。

じゃ、私個人で聞いて、第三者に、誰に、いつ、何を聞いて、どのようにヒアリングをして、無理

だと判断するに至ったか、その経緯を、委員長、資料を出してください。

○委員長（大島九州男君） 後刻理事会で協議をさせていただきます。

○蓮舫君 二〇一九年ラグビーワールドカップに合わせることで無理が生じていませんか。私自身も猛烈なラグビーファンです。子供もやらせています。でも、W杯のために新競技場の工費や工期がオリンピック時よりも大きく変わって、大幅に遅れて工費が膨張する。そして、皆さんの答弁が、ラグビーに間に合わせるためだ。これは、ラグビーファンにとっても実は望まないことだと思いますが、遠藤大臣どうですか。

○国務大臣（遠藤利明君） 私もラグビーをやっておりますから、すばらしい大会にしたいなと思っております。

元々、このラグビーワールドカップが決定したときに、国会の中に超党派の成功議員連盟をつくりました。そのときに、会長でありました当時の西岡参議院議長が国立競技場の場に赴きまして、そして多くの観衆の前で、この二〇一九年のラグビーワールドカップについては新しい立派な施設で行いたい、そういう発言をされました。そうしたことを踏まえて、東京大会における円滑な運営を確保するためには、メインスタジアムである国立競技場においてあらかじめ大規模な国際ス

ポーツ大会を開催することは重要であると考えております。

また、平成二十六年十月には、東京都が国立競技場を試合会場とする計画で二〇一九年ラグビーワールドカップの国内での開催都市に立候補し、本年三月、ラグビーワールドカップリミテッドの理事会において開催都市が決定された際、国立競技場の決勝戦及び開幕戦の開催も決定をされました。その後、大会組織委員会と東京都は、国立競技場を試合会場とすることを前提に開催のための契約を締結しており、政府としても、ラグビーワールドカップ二〇一九に間に合うように国立競技場を完成する必要があると考えております。

○蓮舫君 今の大臣のお話は、超党派の議員の御努力であったり、東京都の話であったり、関係のスポーツの組織委員会の決定であって、国家の議決ではないんです。

そもそも、ワールドカップラグビーは、国立競技場の改築がなされる、その決定がなされる前から、旧競技場以外の会場も提案しながらこれまで招致活動を何度もやってきたんです。そこにたまたまオリンピックの開催に伴って国立競技場が整備されることになった。だから、使用することと前提にしているんですが、政府として機関決定されましたか。

○国務大臣（遠藤利明君） 私は、政府の、当時

責任ある立場ではありませんでしたが、政府で決定したということについては、その段階では存じておりません。

○蓮舫君 そうなんです。ただ、二〇一九年の四月七日の閣議で、ラグビーワールドカップ、これはほかの会場もありますから、十一会場。それを日本に招致するというのは口頭了解しているんです。でも、国立競技場でやるということは政府として決定していない。ただ、財政面では、JSCが上限三十六億円の助成を行うというのは決まりました。

でも、例えば東京オリンピック、何で東京オリンピックが国の問題になるかというと、東京オリンピックは国が財政保証しているんです。都が払えなかった場合、組織委員会が払えなかった場合には国が負う、だから国の責任。でも、ラグビーワールドカップは、国は、これを財政保証はしていないんですね。

ならば、この二〇一九年に無理やり合わせなくても、ほかにも六万規模の会場があるからそこで行うということにして、その関係者に説得をする仕事をするのが東京パラリンピック・オリンピック担当大臣の財政上の低く抑える責務ではないですか。

○国務大臣（遠藤利明君） いろいろ御意見を伺いました。確かに、政府が財政保証はしておりま

せん。ただし、開催が決定してから、IRBから財政保証してくれというふうな提案があったことも事実であります。

しかし、どちらにしても、今私たちとしては、こうして先ほどのラグビーワールドカップのリミテッドについても公約をして、そして締結をしておりますから、そうした形で進むべきものと考えております。

○蓮舫君 その出口の二〇一九を本来の二〇二〇年に戻せば余裕が少し出る。槇案ももつと第三者的に議論をする。いろんな部分で、私はまだ今だつたら見直しができると思っているんです。

三千億近くの前算に、先送り屋根の政府案が本当にいいのか。それとも、一千億の前算、かつ東京オリンピックに間に合う工期の槇氏案がいいのか。見えないところで関係者だけで決めるんじゃないかと、見える形で、国民に伝わる形で何らかの比較検討のヒアリングを行うべきではないかと思っておりますが、大臣、いかがですか。

○国務大臣（下村博文君） まず、槇案については、私も直接お話を聞きまして、これは槇さんたちもおっしゃっているんですが、超法規的な手続をして短縮しないと間に合わないとは自らおっしゃっておりますんですね。超法規的というのは、つまり、例えば許認可で、一年とか一年半掛かるのを半年でやればという前提条件があるわけ

です。それは相当なリスクがあると、実際に間に合うかどうか分からないと。

それから、今までと同じような形で、先ほど申しました、仮にラグビーワールドカップ二〇一九の開幕戦……

○委員長（大島九州男君） ちよつと速記を止めて。

〔速記中止〕

○委員長（大島九州男君） それじゃ、速記を起こして。

下村文部科学大臣、じゃ、その答弁、済みません、お願いします。

○国務大臣（下村博文君） 今、答弁したんです。

○委員長（大島九州男君） はい、済みません、もう一度。（発言する者あり） いやいや、どうぞ、ちよつと大臣。

○国務大臣（下村博文君） いいですか。（発言する者あり） はい。

○委員長（大島九州男君） いいですか。

蓮舫君。

○蓮舫君 やらない理由はよく分かります。でも、踏みとどまる決断をしてもらいたいですよ。改めて、私は、やっぱりこのまま進めるのは本当に、正直、次の世代に負の遺産しか残さないと思う。レガシーは負ではいけないんです。でも、判断は、決断はしないということが今日よく分かりました

ので、引き続き我々としても代替案も含めて提言をしていきたいと思っております。

それと、最後に遠藤大臣にお伺いをいたしますが、一言で、御自身がオリンピック・パラリンピック担当大臣として最も国民から望まれるのは何だと思えますか。

○国務大臣（遠藤利明君） 日本の国民の皆さんが喜んでこのオリンピックを開催し、そして一丸となって大会の成功を得るということだと思っております。

○蓮舫君 そのとおりだと思います。それともう一つ、クリーンであることだと思います。

二か月前、FIFA副会長ら組織幹部の複数名が収賄、脅迫、マネーロンダリング等の容疑で逮捕、その最中に再任された会長は僅か四日で辞任を決めました。世界中のサッカーファンだけではなく、スポーツファンが本当に驚愕をしました。そこで伺いますが、大臣の政治団体、新風会、

収支報告書を拝見しました。平成二十五年度分、収入総額一・二億、前年度からの繰越しを除くと九千四百万、その八五％が個人献金と政治資金パーティーの収入でよろしいですか。

○国務大臣（遠藤利明君） お答えします。そのとおりであります。

○蓮舫君 政治資金パーティーの収入割合は、二十五年度収入の実に八割を占めます。チケットは、

二十万円以上購入した人は記載、公表されます。山形で二回パーティーを大臣は開いておられますが、その収入の六割が公表対象、大口の購入者です。個人はいなくて全て会社なんです。建設、土建、開発、工務店、何々組と名前が付く企業ばかりなんです。ゼネコン、建設関係の割合はどれぐらいありますか。

○国務大臣（遠藤利明君） お答えいたします。

平成二十五年度に山形で開催したパーティーにおいて、二十万円以上チケットを購入した企業は三十六社、そのうち建設関連企業は二十九社で八〇・六％であります。

○蓮舫君 今後もうこうした政治資金パーティーは開かれますか。

○国務大臣（遠藤利明君） 政治家個人としては、これまでやってきましたし、それからこれからもと思いますが、大臣の規範がありますので、それに基づいて対応しておきたいと思っております。○蓮舫君 長年の政治活動で、恐らくいいときもそうじゃないときにもずっと支えてくださった方だと思えます。肩書で私は別に斜めから見ようとは思いませんけれども、ただ、大臣がオリンピック・パラリンピック担当ということは、これから新たな会場の整備ですとか建設とかいろんな部分でゼネコンが絡んできますので、是非そういう部分は大臣規範に基づいて、大臣在職中はこうした

方たち対象にチケットを売らない、個人献金をもらわない、そういうことでよろしいですね。

○国務大臣（遠藤利明君） 今、蓮舫委員からおっしゃっていただきましたように、私も二回落選をしましたし、大変苦労もいたしました。そのときに、県内のみならず多くの皆さん方から政治家として頑張れというふうな御支援をいただけてきましたので、企業とか個人とかということではなくて、政治資金法にのつとつた形の中で多くの皆さん方から御支援をいただきました。ですから、個人献金はともかくとして、大臣規範に基づいてそれ相応の対応はしてまいります。

○蓮舫君 是非、個人献金も対象にしてもらいたいと思えます。

その上で、下村大臣、最後にお伺いをいたしますが、ギリシャの財政破綻、今相当な話題になっています。これ、実は東京も人ごとじゃない、日本も人ごとじゃないと思うんですが、ギリシャは、ユーロ導入を目指して財政赤字削減、相当な緊縮財政を続けて、二〇〇一年にユーロに加盟をしました。ところが、その後、〇四年のアテネ・オリンピックが決定をしました。低金利の融資がユーロから可能になり、IMFから可能になりましたので、その結果、空港造る、地下鉄造る、インフラばんばん造る、財政拡張に思い切りかじを切りました。その結果、こうしたインフラを除いて、

会場費だけでも予算の倍の一兆掛かっています。アテネ・オリンピックで使われた箱物は今使われていなくてペンペン草が生えている、こういうところに私たちはもつと学ぶべきじゃないですか。

ギリシャはIMFに借金は二千億円。日本は、この二千億をはるかに超えて、そして新国立競技場を本場に造ろうとするんだろうか。二〇二〇年、東京は三人に一人が六十五歳以上になります。日本はギリシャと違うのは、これから人口減少の時代に入ります。物すごく大きな課題を背負ったときに、三千億に膨れる競技場は、私はこれはやっぱり見直すべきだと思います。最後にいかがでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） アテネ・オリンピック開催経費は、当初の予算では六千二百二十五億円であったということですが、御指摘のように、建設コストの増加や九・一一同時多発テロの影響によるセキュリティ対策の強化などによって計画を大きく超えることになり、この経費の一部を最終的に政府が負担したことが財政悪化の一因になったとの指摘もあります。

しかし、ギリシャ経済危機の原因については、公務員の人件費や年金の高さに加え、適切な徴税が行われていないことなど、財政構造上の問題が主であるとの指摘もあると思えます。ただ、もちろん、御指摘のように学ぶべき点はあるというふ

うに思いますし、アテネ・オリンピックのその状況も十分理解をしながら、そのようなことがないような二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックを開催してまいりたいと思います。

○蓮舫君 終わります。

○新妻秀規君 公明党の新妻秀規です。

最初に、オリンピック・パラリンピック教育の推進についてお尋ねをいたします。

遠藤大臣は、所信挨拶におきまして、東京大会の開催は、ちよつと中略しますが、日本が聖火の火に再び自信を感じ、元気な次世代をつくり上げていくための出発点として、国民に夢と希望を与えるものです、このようにおっしゃっております。

大臣は、これまで自民党の教育再生実行本部長、またスポーツ立国調査会長も務めてこられました。大臣は教育とスポーツの力をどなたよりも強く信じていらつしやる、このように承知をしております。そして、元気な次世代をつくり上げていく重要な要素に大臣が心血を注いでこられた教育があると思います。東京大会まであと五年と迫った今こそ、オリンピック・パラリンピック教育の充実、推進が求められていると感じております。

オリンピック・パラリンピック教育とは、スポーツやオリンピック・パラリンピックを教材として、国際的な視野を養い、世界の平和に向けて活躍できる人材を育成する教育的な活動、このよう

に承知をしております。つい先日発表されました文科省の有識者会議による学習指導要領の中間取りまとめ案におきましては、全国の小中学校などで障害者スポーツや他国の歴史を学ぶ教育に取り組むべき、このようにされております。このうち、パラリンピックにおきましては、この四月十五日に衆議院の文科委員会での我が党、浮島委員の質問に答えてのものと承知をしております。

つい先週、七月十日金曜日の日経新聞にもオリンピック・パラリンピックについて記事が掲載されておりましたので、少し紹介をしたいと思います。オリパラ教育に先行して取り組んでいる東京都では、五輪・パラリンピックに出場した選手を学校に派遣し、子供たちと一緒に運動したり、大会での体験を話してもらったりしている。ブラインドサッカーなど障害者スポーツを体験する学校もある。戦争や紛争のさなかにある国が参加することで停戦などが成立したり、国際親善などに寄与したり、五輪・パラリンピックの意義も学ぶ。参加各国の文化や学習も学習する。このようにございます。大変にこのオリンピック・パラリンピック教育、意義があるものだというふうに感じております。

ここで大臣にお伺いします。あつ、まず政府にお伺いします。済みません。オリンピック・パラリンピック教育の充実、推進について現在の取組

状況はいかがでしょうか、御答弁をお願いします。○政府参考人（久保公人君） お答え申し上げます。

二〇二〇年に向けてオリンピック・パラリンピック教育を日本全国で展開していきますために、今先生御紹介いただきました、今年二月に有識者会議を設置いたしました。スポーツ、教育、メディア等の様々な関係者に御参集いただきまして、オリンピック・パラリンピック教育の基本的な考え方や推進方策について検討を進めているところでございます。

有識者会議の中間取りまとめに向けて現在調整を行っているところでございますけれども、その中では、各教育段階において効果的、継続的にオリンピック・パラリンピック教育の推進を図るため、地域の教育機関やスポーツ団体、民間企業等を巻き込んだ推進体制を全国各地において整備する必要がありますことなどについて提言がなされておるところでございます。

また、文部科学省におきましては、今年度から全国の学校でオリンピック・パラリンピック教育の意義、役割などの教育を促進いたしますための映像教材等を作成いたしますとともに、各地域でのオリンピック・パラリンピック教育の効果的な推進方策に関する調査研究を行うこととしておるところでございます。